

新しい教育分野の創出、働くことを想像しやすく

# 家族になれる街

どんな風に働きたいかを想像したことのある人はいても、理想の働き方の実現に誰がどんなことに取り組んでいるかを知る人は少ない。働き方改革が進捗し現役世代の労働環境が見直される中で、これから社会に出る世代にはどのような働き方の「教育」がなされているのだろうか？そこでわれわれはひとつ「働くこと」を学べる新しい教育分野を作ることを提案する。仕事と育児を改めて理解するための機会こそ、これからの世代に必要な教育である。

黄金色に輝く栗が美味しそうな栗ご飯...。この記事では家族で栗ご飯を作って食べる秋の一夜が取り上げられている。この記事を読んでふと思ったことがある。過労や残業が社会問題となっている今、このような団らんができる人々は果たしてどのくらいいるのだろうか。そこで私たちは過労や残業問題を改善するワークライフバランスという考え方に焦点を当てた。



【取材の結果】

ワークライフバランスについて調べていく中で、北九州市のイクボスという取り組みを知り、この取り組みを行っている北九州市女性活躍推進課に取材へ向かった。イクボスとは自らが率先して柔軟な働き方を実践する上司のことを指す。またそうした上司のもとで、仕事の効率を上げることは勿論、部下や職場の雰囲気づくりや家庭と仕事の無理のない両立を促す取り組みのことである。

▼イクボス充実度ランキング1位

北九州市では市内の企業にイクボスへの参加を促すとともに、市役所内でも市長をはじめとする全管理職がイクボス宣言を行い、専門コンサルタントの支援を実施することで、働き方の改革が行われた。イクボスがいる組織では柔軟な働き方が許され、離職者が減り、生産性も向上しており、少しずつではあるが、今後も成果が出るのが期待されている。

▼情報発信の難しさ

認知度が低いというのが日下の課題である。企業向けのセミナーや学生向けの広報活動があっても、新しい考え方であるが故に十分社会に浸透していないと言える。

長時間労働 是正打ち出す



【新しい提案とその根拠】

2016年度は51.2%と半数以上の学生が働きやすさを重視していることが分かった。しかし市役所の担当者の話では企業の労働環境整備の取り組みの認知度は低く、その改善にあたっては、学生は企業を知る必要があり、企業は働き手確保する必要がある中で相互に情報交換ができることは双方にメリットがあると言える。民間の自主性に任せるのではなく、行政の先導もまた必要とされているという現状を鑑み、我々が労働環境を学べる学習分野を新たに創出することが必要ではないだろうか。多様化する働き方を学ぶことは、どんな家庭を築きたいかを考えることにつながる。

〈働く上で大切にしたいもの〉



（出典）2016年就職活動に関する調査

【発行人】C班（中島、北村、相葉、大羅）